

# 大宰府の 瓦

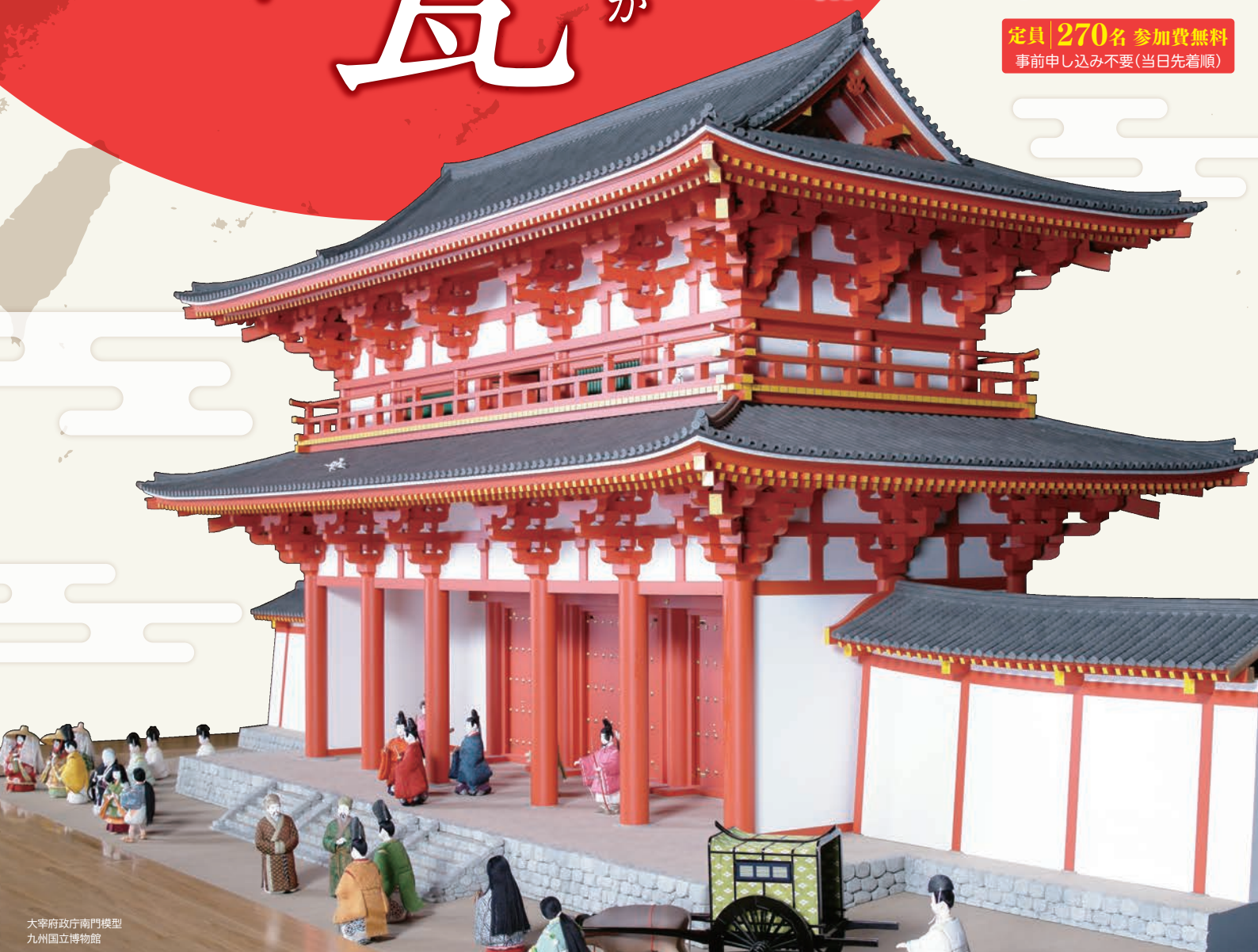
—瓦が語る 古代の大宰府—

いらか

2026年2月21日<sup>土</sup>  
13時～16時45分(12時30分受付)

九州国立博物館  
1階ミュージアムホール

定員 270名 参加費無料  
事前申し込み不要(当日先着順)



古代・大宰府では、大宰府政庁を中心に、官衙<sup>かんが</sup>や古代山城などの施設が整えられました。また華やかな仏教文化の開花によって、観世音寺などの寺院も新たに建立<sup>こんりゅう</sup>されました。鮮やかな朱で彩られた建物の屋根には、蓮華文<sup>れんげもん</sup>や唐草文<sup>からくさもん</sup>の軒瓦<sup>のきがわら</sup>、鋭い眼差し<sup>まなざ</sup>の鬼瓦<sup>おにがわ</sup>といった、華やかな文様で飾られた瓦が葺<sup>ふ</sup>かけられました。前代の古墳時代とは全く異なる荘厳な姿は、人々の目を奪<sup>うば</sup>ったことでしょう。

九州における瓦の使用は、飛鳥時代<sup>さかのぼ</sup>に遡ります。博多平野や豊前地域では国内最古級の瓦が出土し、すでに最先端の瓦製作技術<sup>どうにゅう</sup>が導入されていたことがわかります。律令時代<sup>りつりょう</sup>に入ると、新しい技術や文様が入り入れられ、都の瓦とそっくりな軒瓦が出現するなど、その姿は大きく変化します。国家的な律令体制整備の中で、大宰府の本格的な整備が進められた様子がうかがえます。

今回のシンポジウムでは、これら建造物の屋根<sup>かざ</sup>を飾った「瓦」を取り上げます。特別な施設にしか使用されない瓦は、古代都市大宰府の成り立ちはもちろん、九州と国内外との交流を考える上で、重要な素材です。長年にわたる発掘調査の成果から多角的に研究が進められ、近年新たな発見もありました。これまで何が明らかとされてきたのか、今何が課題であるのか、最新の調査研究成果を交えながら、古代日本の「西の都」の姿に迫ります。

# 大宰府の瓦はどこから来たのか

重要文化財 鬼瓦  
九州国立博物館



## ……プログラム……

- 12:30~13:00 開場・受付
- 13:00~13:10 開会行事
- 13:10~14:10 **発表1**「瓦 一朝鮮半島から九州へー」  
亀田修一（岡山理科大学名誉教授）
- 14:10~14:20 休憩
- 14:20~15:20 **発表2**「大宰府の瓦と藤原京・平城京の瓦」  
岩永省三（九州大学名誉教授）
- 15:20~15:30 休憩
- 15:30~16:00 **発表3**「大宰府の鬼瓦」  
齋部麻矢（九州国立博物館）
- 16:00~16:10 休憩
- 16:10~16:40 パネルディスカッション
- 16:40~16:45 閉会行事



— 太宰府天満宮横 —  
〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2  
ハローダイヤル 050-5542-8600  
(午前9時~午後8時/年中無休)  
[www.kyuhaku.jp](http://www.kyuhaku.jp)



九州国立博物館



定員 **270名** 参加費無料  
事前申し込み不要(当日先着順)

拓影は老司式軒瓦 九州歴史資料館